

## 自 己 評 価 表

愛媛県立今治西高等学校伯方分校

学校番号 14.2

教育方針	地域に根ざし、個々の生徒に応じた教育を目指し、勤労と責任を重んじ、人間性の涵養に努め、豊かな文化の創造と発展に寄与することのできる心身ともに健全な人間を育てる。	重点努力目標	『にしき(忍耐・真剣・希望)を体現できる生徒の育成』 一 個別指導の充実と主体性を育む教育活動の実践— 忍耐…風雪の道を歩み、自己をきたえる 真剣…探究の道を歩み、英知をみがく 希望…理想をかかげ、未来をひらく
------	--	--------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
魅力ある学校づくりの推進	魅力ある学校づくりの推進	生徒による授業評価を導入して授業改善を図りながら、学校魅力化を推進することにより、「伯方分校に入学してよかった」と思う生徒100%を目指します。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:79~60% E:59%以下	C	昨年度より、6ポイントの上昇で、生徒の80.5%、保護者の92.5%が伯方分校に入学して(させて)よかったと感じている。生徒による授業評価の結果も良好であった。	今後も、全日制普通科高校としての体を保ちつつ、1つ1つの取組を充実させ、生徒に寄り添った学校運営を続けたい。数値に惑わされることなく、長い目で見た人間形成を心掛けたい。
		学校の教育目標や経営方針、生徒の活動状況等を、ホームページや学校通信等に掲載するなどして情報発信に努めます。	A	ホームページには教育目標や学校紹介動画を掲載し情報発信に努めた。テレビや新聞への情報提供も行い、マスコミに取り上げられる機会も数多くあった。	入学志願者数増加につながる情報発信の方法について検討しつつ、今後も、継続して情報発信に努めたい。
	教職員の資質・能力の向上	校外研修への参加機会を確保しながら、生徒理解研修等により、生徒が充実感や達成感を味わえる学校づくりに努めます。	C	校外研修の周知、案内は行ったが、各教員の校務と重なり、学校訪問研修やICT活用推進公開授業、各種セミナー等への参加機会の確保が困難であった。校内における研修では、不登校支援のあり方、授業研修など、充実した内容であったと感じている。	各教員の業務分担を図り、研修への参加が容易にできる協力体制を整えたい。オンライン開催の研修等も積極的に活用し、生徒指導に還元できるように努めたい。さらに、研修で得たことを学校全体で共有できるような体制を整えたい。
	施設・設備の充実	施設・設備等の点検や情報の適正な管理に努め、保健指導や防災教育の充実化により、安全・安心な環境づくりに努めます。	B	防災避難訓練やシェイクアウト活動を定期的実施することで、生徒自身の避難行動が定着している。また、定期的に安全点検、保健指導を実施することにより安全な教育環境が整備されている。	防災教育等が形骸化することのないよう、生徒の主体的な取組を促したい。また、情報管理・保健指導についても緊張感を維持し続けて実施したい。
自ら学ぶ力と豊かな創造性	家庭学習・自主学習等の充実	ICTの活用や適切な課題の提供により、家庭学習の充実を図り、各学年1日平均学習時間180分以上を目指します。 A:220分以上 B:200分以上 C:180分以上 D:160分以上 E:159分以下	B	学年団、教科担任を中心として、家庭学習に関する指導を徹底した結果、目標を達成することができた。 全学年1日平均学習時間:204分	一人一台端末やスタディサブリを活用して、生徒のレベルに応じた課題を提示し、学習意欲を喚起するとともに、家庭学習習慣の確立に努める。
	朝の読書の深化と読書指導の充実	朝の読書をととして、読書に親しみ、思索する態度を育てます。(図書室年間貸出冊数一人当たり3冊以上) A:4冊以上 B:3冊 C:2冊 D:1冊 E:0冊	D	図書館だよりの発行や、図書委員の呼びかけにより図書館の利用数や朝の読書週間前の図書の出冊数は多少増えたが、一人当たり3冊以上の目標には達することができなかった。	新刊図書の購入を積極的に行い、図書の充実を図りたい。また、読書週間以外の期間も多く生徒が図書館を利用するよう案内し、読書に親しむ環境づくりに努めたい。
	教科指導力の向上	ICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、「よく分かる」「学力を伸ばす」授業改善に取り組みます。	C	ICTを活用した授業実践は増加傾向にあるものの、主体的・対話的で深い学びにまで発展させるためには、更なる授業改善が必要である。	生徒の多様化の深化に対応するためにも、教科指導や人権教育等の指導力向上に資する校内研修(研究授業等)を計画的に実施する。
	各種検定の奨励	各種検定合格者80名以上、上位資格取得者5名以上を目指します。 A:80(5)名以上 B:79~60(4)名 C:59~40(3)名 D:39~30(2)名 E:29(1)名以下	A	各種検定対策が積極的に行われており、生徒の学習意欲の喚起にもつながっている。 合格者数:102(13)名	家庭学習の充実化を図るとともに、個別指導の徹底に努め、上位資格へのチャレンジをサポートする校内体制づくりを行う。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
豊かな学 創造力と 自 力	一人一人の進路実現の工夫	生徒一人一人に応じた適切な進学指導を行うことにより、進学希望者全員の進路実現を目指します。(国公立大学合格3名以上) A:4名以上 B:3名 C:2名 D:1名 E:0名	C	国公立大学合格者は2名であった。私立大学、短期大学、専門学校の合格状況も良好で、個に応じた適切な指導が行われた。	今後も具体的な進路目標をもたせ、学習意欲向上のために進路課、学年団、担任、教科担任が連携した取組を行っていききたい。
		地元企業や関係機関との連携を密にすることにより、就職情報の提供や求人開拓に努め、就職希望者全員の進路実現を目指します。	A	就職希望者の進路希望達成率100%を達成した。特に、生徒本人の希望をよく聞き、その達成のための支援を適切に行った。	引き続き、生徒の就職希望を達成するための適切な支援を行っていききたい。
	部活動の充実と活性化	部活動で県レベル以上の大会に出場する生徒70名(70%)以上を目指します。 A:70名以上 B:69~50名 C:49~40名 D:39~30名 E:29名以下	D	県レベル以上の大会に出場する生徒数は目標を下回ったが、各個人の満足度を重視し、心身の健全な育成と豊かな人間形成を図ることができた。	生徒の主體的で対話的な活動の場としての部活動の意義の啓発に努めるとともに、限られた時間内で効果的な練習方法等の工夫・見直しを徹底する。
思いやりと自己を 律する心	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立に努め、各学期皆勤者70名(70%)以上を目指します。 A:70名以上 B:69~50名 C:49~40名 D:39~30名 E:29名以下	D	昨年に比べ、退学者転学者の人数が増加した。個々の目標にあった進路実現を目指すことが求められている。寮生活を送る生徒や中学時代不登校傾向の生徒の生活が改善され、楽しく登校できていることは喜ばしい結果である。	日常生活を送る目標は達成され、次のステップである生活習慣の確立に向けた指導を行っていききたい。
		挨拶の励行に努め、豊かな人間関係を育む情操を培うとともに、規範意識を育てる教育活動を充実させます。	C	挨拶を含め礼儀やマナー、他者への配慮等について、丁寧に指導しなければならない場面が見られた。	学校生活における目標設定など、生徒の自律的生活を適切にサポートする指導に加え、家庭との連携を図ることにより、基本的な生活習慣の確立に一層努める。
	互いに認め合い、支え合う仲間づくり	生徒の悩みを受け止める環境づくりに努めるとともに、人権尊重の意識を更に高め、人権侵害を「しない・させない・許さない」生徒100%を目指します。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:79~60% E:59%以下	C	各学期ごとに学校生活におけるアンケートを実施した。いじめや体罰を受けたと記入した生徒が数名いたが、面談を行い対応した。その後も継続指導中である。悩みを抱えている生徒についても養護教諭、スクールアドバイザー、支援員等の協力の下、適宜対応した。	環境の変化に伴い、特に1学期は1年生の相談や、欠席・欠課が多く、特定の教員が対応に追われた。全職員の共通理解を図り、生徒支援体制を整え、生徒の悩み解消や人権尊重の意識を高められるように努めたい。
郷土愛と地域貢献	特別活動の充実と連帯感の醸成	学校行事や生徒会活動などの特別活動を盛んにし、愛校心や地域に貢献する心を育てます。	B	今後統合予定である大三島分校と合同で学校行事を行うことが実現した。自らをアピールしたり、他者を理解したりすることで、お互いに認められていることを生徒自身が実感できたように感じる。	地域等の教育力を効果的に生かしながら、総合的な探究活動の更なる充実化を図る。生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図るとともに、魅力的な学校づくりに参画しているという自覚を促すことにより、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決に取り組もうとする生徒の育成を目指す。
		生徒会や各種委員会を通じてボランティア活動や地域のイベントへの参加を促し、地域が抱える課題について主体的に考える生徒の育成を目指します。	B	地域イベントへのボランティア活動や文化祭などを通じて、地域と連携した取組ができ、一定の成果を得ることができた。	
改善業務	適切な勤務時間と職場環境の整備	校務分掌の整理・統合により、業務分掌の適正化と明確化に努めるとともに、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図ります。	D	コロナによる制限が解除され、対面での指導・活動が活発になり、教職員の負担も増加した。	令和8年度の学校統合を機に、部活動や校務分掌の統合を目指し、業務の削減に努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。